



Qualys Enterprise TruRisk™ Management (ETM)

世界初のクラウド型リスクオペレーションセンター

今日の複雑なサイバーセキュリティ環境において、断片化されたツールとサイロ化されたリスク管理手法は組織が脅威に効果的に対処することを妨げています。

2023年には世界中で31,000件以上の新たな脆弱性が公表され、従来の方法ではクラウド、オンプレミス、ハイブリッド環境を横断したセキュリティ運用を統合することができません。

攻撃対象領域の拡大: 現代のIT環境にはIoT、クラウド資産、リモートセットアップが含まれており、脆弱性が増大しています。

断片化されたツール: 断片化されたソリューションは予算を膨らませ、リスクへの対応を遅らせます。

運用上の非効率性:

サイロ化されたセキュリティ運用は、重大なリスクの見逃しや、修復の遅延につながります。

コミュニケーションギャップ: 技術的なリスクをビジネス用語で表現することは、CISOにとって依然として大きな障害となっています。

サイバーリスクの測定、伝達、排除



統合アセットインベントリ: Qualysまたはサードパーティソースのデータを活用し、統合資産インベントリで攻撃対象領域を可視化します。



リスク要因の集約: VMs, OT/IOT, Cloud, Code, ユーザーIDなど、資産全体のリスク検出結果を統合します。



脅威インテリジェンスとの相関関係: Qualysが厳選した25以上の脅威インテリジェンスフィードや、Talos、MITRE Att&ckなどのカスタムインテリジェンスとリスクデータを相関分析します。



ビジネスコンテキストの追加: ビジネスコンテキストを追加し、金銭的価値、損失属性、リスク値 (VAR)に基づいてサイバーリスクを定量化します。

世界初のクラウドベースのリスクオペレーションセンター (ROC) であるQualys Enterprise TruRisk Management (ETM) は、サイロ化されたデータを統合フレームワークに変換し、組織がリスクを特定、評価、軽減できるようにします。環境全体にわたる包括的なリスク可視性、自動化されたワークフロー、統合された脅威インテリジェンスにより、意思決定を強化し、セキュリティ戦略とビジネス目標を整合させ、企業全体のリスク管理に対するプロアクティブなアプローチを確保します。

Qualys ETMは、技術的なリスク管理とビジネス目標の間のギャップを埋めます:

- Qualysおよびサードパーティの調査結果に関するリスク管理を一元化
- 統合されたアセットの可視性と状況に応じたリスクの優先順位付けを提供
- 自動化と統合により、修復ワークフローを合理化



重要事項の優先順位付け: 深刻度、悪用可能性、資産の重要度、ビジネスへの影響を考慮したTruRisk™スコアを用いて、リスクを優先順位付けします。



リスク対応のオーケストレーション: AIと自動化されたワークフローを用いて、パッチレスな修復、自動チケット発行、リアルタイムアラートなど、リスク対応をオーケストレーションします。

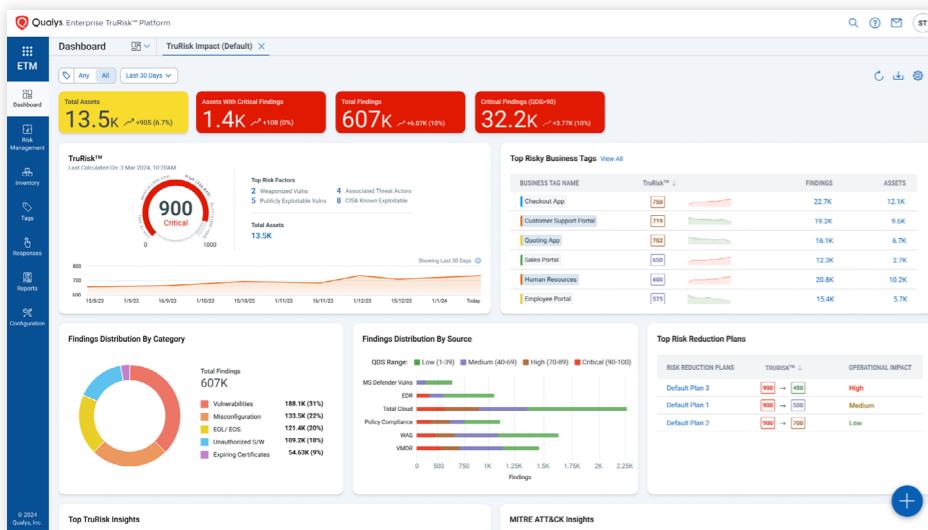


コンプライアンスと経営幹部向けレポート: 詳細な監査証跡によってコンプライアンス対応を強化し、リスクに関する統一された言語で経営幹部向けのレポートをカスタマイズします。

リスク管理変革のための主要なユースケース

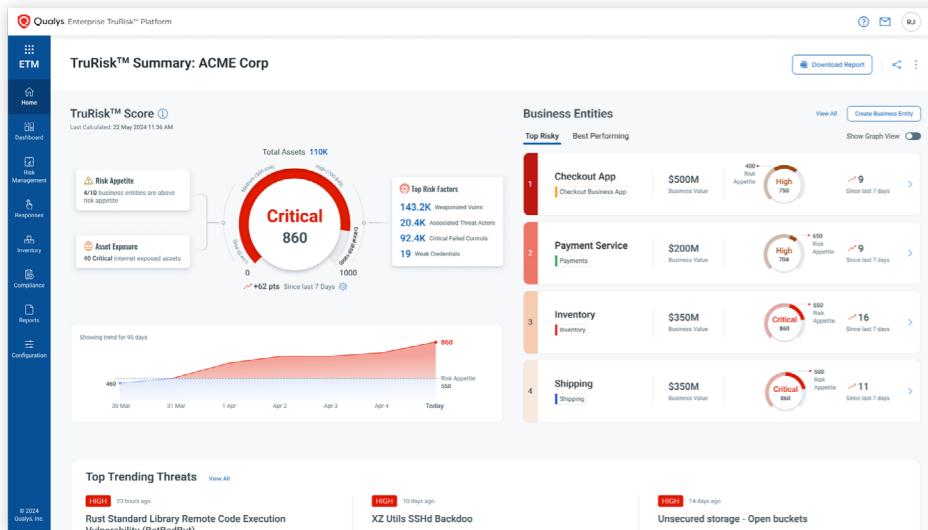
1 一元化された可視性とレポート

効果的なサイバーセキュリティの基盤は可視性です。Qualys ETMは、多様なソースからのデータを一元管理し、サイロを解消して、組織のサイバーリスク状況を一元的に把握できるようにします。



2 リスクデータの拡充

効果的なリスク管理は、コンテキストインテリジェンスにかかっています。Qualys ETMは、さまざまなセキュリティツールから得られる生のリスクデータを、重複排除、正規化、そして脅威インテリジェンスとビジネスコンテキストによる情報強化によって強化します。



- 統合アセットインベントリ - 全てのアセット（既知、未知、忘れられた、ホスト、Webアプリケーション、クラウド、IoT、ハイブリッド環境）を管理。

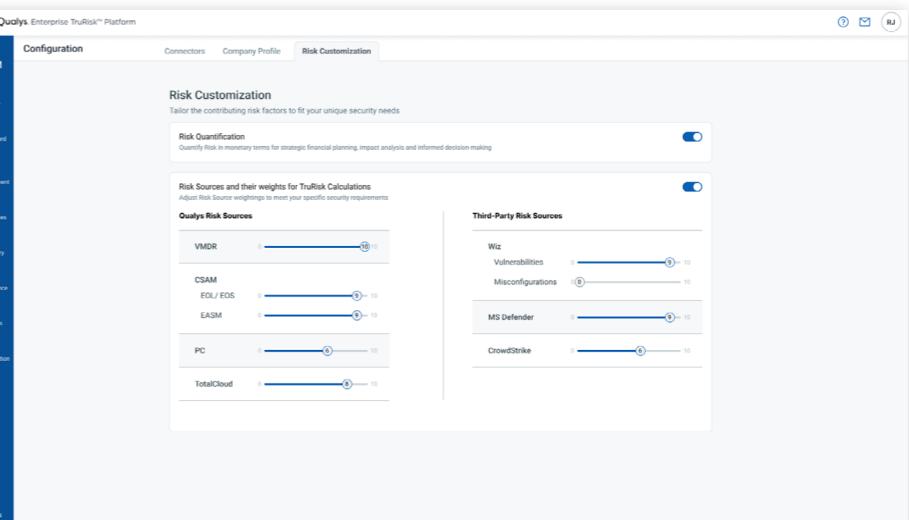
・集計結果 (Qualysツール (例: VMDR, WAS, EASM) からの脆弱性、セキュリティリスクデータとサードパーティソリューションを含む) により組織のリスク状況を包括的に可視化。

- リアルタイム分析情報を提供する動的ダッシュボード - セキュリティアナリストから経営幹部までさまざまな関係者に合わせてカスタマイズされたセキュリティの傾向、コンプライアンス状況、リスク指標に関するリアルタイム分析情報を提供。

3

リスクの優先順位付けとオーケストレーション

Qualys ETMは、リスク管理を、個別のツール固有のアクションから、セキュリティデータレイクを使用した一元的なリスクの優先順位付けと、統合されたすべてのツールにわたる検出結果の一貫したリスクスコアリングを備えた調整された戦略へと変革します。



- TruRisk™スコアリングは、悪用可能性、ビジネスへの影響、脅威インテリジェンス、資産の重要度などの要素に基づいて、各リスク検出結果にビジネスに適合したリスクスコアを割り当て。

- コンテキスト優先順位付けでは、重要なビジネスアプリケーションや機密データの場所など、組織固有のニーズに基づいてカスタムリスク属性とタグを割り当て。

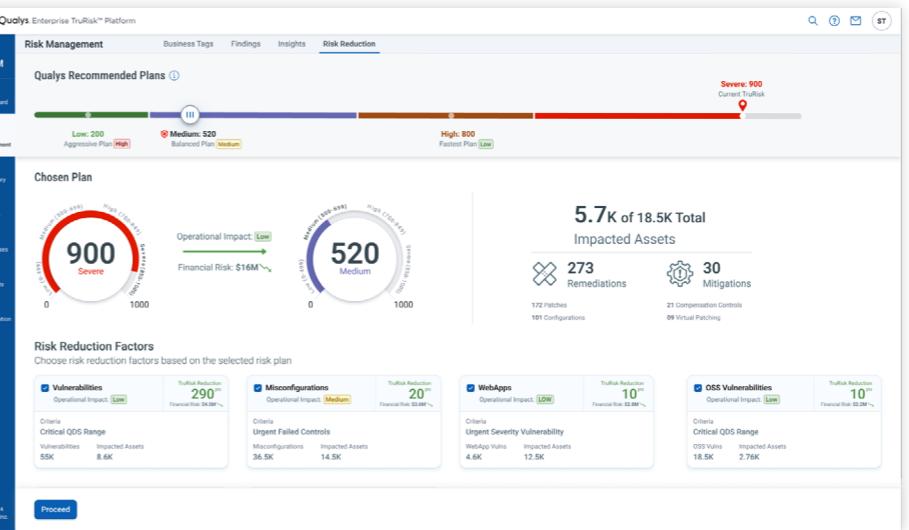
- リスクオーケストレーションはワークフローを自動化し、修復対応を効率化。

たとえば、リスクの高い検出結果により、パッチの展開やシステムの分離などの事前定義された修復アクションがトリガーされ、ITSMツール (Jira, ServiceNowなど) やCI/CDパイプラインとシームレスに統合されます。

4

修復と追跡

プロアクティブで合理化された修復プロセスは、リスクを最小限に抑え、コンプライアンスを確保します。Qualys ETMは、修復アクティビティを一元的に割り当て、監視することで、SLAコンプライアンスとシームレスなワークフローを実現します。



- 自動修復は、チケットの作成と修復の割り当てを簡素化し、従来のパッチ適用とAI駆動型のパッチレス修復（対象を絞った隔離や構成修正など）を使用して特定されたリスクにリンク。

- 追跡と検証 - すべてのツールと資産にわたる修復の進捗状況。SLA遵守に関するリアルタイムの更新を提供。

- リスク削減計画 - TruRisk™スコアに基づいてカスタマイズされ、構造化された優先順位付けの方法でリスクに対処、最も重要な脅威にフォーカスが可能。

さらに、リスク受け入れワークフローでは、即時の修復が不可能な場合の例外を文書化して管理。

- 脅威インテリジェンス - MITRE ATT&CK, Talos, McAfeeなどの25を超えるグローバル脅威フィード及びQualysのライブ脅威インテリジェンスフィードにより、悪用可能性とアクティブな脅威インジケーターをリスクデータに反映。

- ビジネスコンテキスト化 (カスタムビジネスコンテキスト (資産の所有権、重要度、財務上の影響など) を追加) し、ビジネスの優先順位に基づいて最も重要なリスクを優先順位付け。

- 正規化と EOL/EOS の洞察: エンリッチメントには、サポート終了 (EOL) やサポート終了 (EOS) 情報などのハードウェア/ソフトウェアライフサイクルの詳細が含まれており、チームが最新化の取り組みを優先順位付け。

積極的なサイバーリスク管理に向けた第一歩を踏み出しましょう



可視性の集中化、リスクインサイトの強化、修復の自動化など、Qualys ETM があらゆるニーズに対応します。

[Qualys ETM](#)の詳細をご覧いただけます。お問い合わせください。

30日間トライアルのスポットを確保しましょう。

[qualys.com/etm](https://www.qualys.com/etm)

Qualysについて

Qualys, Inc. (NASDAQ: QLYS) は、Forbes Global 100 および Fortune 100 の大部分を含む、世界中に10,000 社以上のサブスクリプション顧客を持つ、革新的なクラウドベースのセキュリティ、コンプライアンス、および IT ソリューションのパイオニアおよび大手プロバイダーです。Qualys は、組織のセキュリティとコンプライアンスの合理化と自動化を支援し、ソリューションを単一のプラットフォームに統合することで、機敏性の向上、ビジネス成果の向上、大幅なコスト削減を実現します。Qualys、Qualys VMDR®、および Qualys のロゴはQualys, Inc.の商標または登録商標です。その他すべての製品や名前は、それぞれの会社や組織の商標や登録商標である場合があります。

詳細については、[qualys.com](https://www.qualys.com) をご覧ください。

v250214

©2025 Qualys, Inc. All Rights Reserved.